

イルカ通信

小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)

2009年12月1日 No. 033

隔月1回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

「個体識別の先にあるもの」

先月のイルカ調査で#20親子とザック (#9) 親子に遭遇。ウェザー沖で出会ったのは#20とザックを含む親子グループ。南島沖では#20の娘#19とザックの息子#232の若者グループ。親と子が別々の場所で行動していたようですね。このように、個体識別調査を続けていくことで、イルカの血縁関係だけでなく社会的な結びつきが少しずつ分かってきます。

ミナミハンドウイルカに限らず多くのイルカ・クジラ類や竜長類(人間含む)などは、集合と離散を繰り返す流動的な社会的な結びつき(集合離散)を持ってることが知られています。集合離散を噛み砕いて説明してみましょう。「19子は朝食を食べながら家族と団らん。登校後は同級生達と授業をうけ、放課後には部活の仲間達と汗を流す。夕方は232太郎と初デート。帰宅後は親戚一家と夕食タイム。親戚一家の帰宅後は再び家族での団らん」。家族、同級生、部活の仲間、彼氏、親戚、再び家族、異なるメンバーとくっついたり離れたりしていますが、それぞれが意味を持ったグループとして成り立っていますね。これが集合離散という社会的な結びつきのイメージです。

さて、イルカの社会に話を戻しましょう。ハンドウイルカでは親子グループやオスメスが入り混じった若者グループなど、様々なグループを作ることが知られています。#19が初めて確認されたのは2003年。当時は常に母親と一緒にいましたが、2006年以降母親とは別々に行動している様子も確認されています。もしかしたら、すでに親離れしているのでしょうか。今後#19と#232は若者グループとして行動し、時が来たら#19は育児のために母親と共に親子グループとして行動するかもしれません。今後の調査で、これらのグループの形成と消失過程について面白い事実が見つかること嬉しいのですが、どうなることやら。



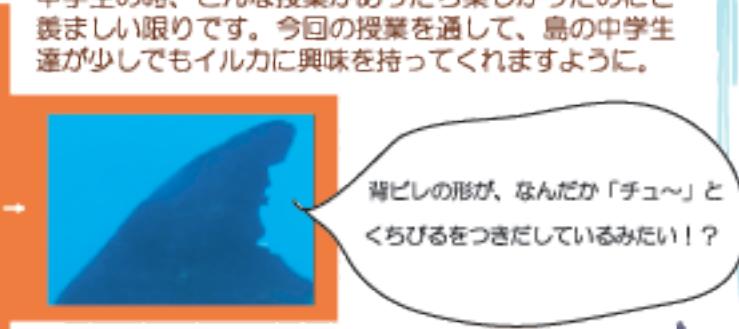
ある時は集団で・・・



またある時は1頭で・・・



写真：背びれの模様が特徴的な#27（通称チューヤン）



背びれの形が、なんだか「チュ～」とくちびるをついた感じみたい！？

小笠原ホエールウォッチング協会

〒100-2101 東京都小笠原村父島字東町 Tel 04998-2-3215 e-mail owa@h6.dion.ne.jp

イルカ通信はOWAのホームページ (<http://www.ogasawara.or.jp/owa>) もしくは <http://www.h2.dion.ne.jp/~owa/hukatsushin/hukatsushin.html> からダウンロードできます。(無料)

URL <http://www.ogasawara.or.jp/owa>